わが班の経営改善

神岡営林署　竹内文雄

1. はじめに

私達のソンボ国有林は、神岡署の最北端に位置し、頂から富山の街や海が眺められる山です。このソンボも、かってはチェーンソーがなり響き、ヘリコプター集材までして注目を浴びたこともありましたが、植付も50年に終り、今では鳴りものも姿をひそめ静かな山になり、鎌と鉈による保育作業が主体で、平均年令54歳、男子1名女子3名の男女混合造林班です。

改善計画も第二期に入り私達の班でもどうすれば安全に働けて良い山造りができるのか語りあって、仕事を進めてきたところです。一昨年10月には新しい主任が赴任され「あなた達は、もう20年、30年と長い造林の経験者なんだから主任の指示、命令を唯ロボットのように守るだけでなく、どうしたらムリ・ムラ・ムダな作業をせずに効率的な作業ができるのか、自分達で考え、実行すれば気持ちが良いだろうし、やり甲斐もあると思う。造林のプロだという誇りを持ち、全員で前向きの建設的な知恵を出しあい努力を重ねたら、必ず立派な結果が得られると思うがどうだろうか」と話された。

高齢化に加えて、作業功程も神岡署で最低という問題意識をもっていたとき、主任の話を聞き、どうせやるなら気持よくやれて、やり甲斐のある仕事を、と署や主任の指導を得ながら、過去の研究発表の事例研究や民間の人の話を聞き、みんなで話し合い、最良と思われる方法を見出し、全員で実行、反省を繰り返した結果、功程も上がり無災害で下山することができました。

次にその取り組みと成果を報告します。

2. 取り組み

(1) 仕事にとりかかる前に

ア　各種研修を受ける。

山の仕事を単純な作業の連続とせず、興味をもって考えながらやる仕事にするために、次の項目について実行した。

(ア) 刃物の砥ぎ方……刃物がよく切れること。

(イ) 基本図の見方……事前のプランニング

(ウ) 地域施業計画……4皆用5皆用の内容

(エ) 雪崩発生ケ所と植生……保育方法検討

(オ) 土　　壌……造林適地か。保育方法の検討

イ　現場見を行う

対岸から実行地全体を眺め、山の実態と作業方法をみんなで話し合い、納得し合って仕事にとりかかることにより、自分のものとして仕事ができるようになった。足元だけ見ての作業では真の山造りはできない。

ウ　歩道修理を先に

実行区域内は全部修理してから主作業にとりかかることにより、安全で作業能率が向上した。

(2)　除　　伐

ア　道具を選ぶ

鎌は両刃と片刃を、大きな灌木の所は鉈を使用した。

イ　植生に応じた刈り払い

笹、低灌木など造林木の生育の妨げとならない植生は刈らない。

ウ　刈払方法を考える。

急斜地は縦刈、緩斜地、群状植栽地は横刈と、山の実態に合せた方法により画一的作業を排除した。

(3)　除草剤などの使用

ア　つ る 切

石油処理を55年度より実行しているが、殆んど再生せず効果が表われている。

イ　特 殊 下 刈

通勤時間が1時間以上要し、チシマザサが繁茂し密生状態になるので、56年10月フレノックを人力散布したが、経過は良好で再生もみられず枯死したものも多く見受けられた。

ウ　境 界 巡 検

管内が6団地と散在し境界延長が長いうえにチシマザサが密生しているため、散布に最小限必要な通路刈払いの後、フレノックを職員実行で人力散布した。結果は良好でした。塩素系薬剤を使用しないのは散布量がフレノックの方が少なくてすむから。

(4)　体をラクにし能率向上のために

ア　気象条件を考える。

午前や寒いときは日当り側、西日の射す午後や暑いときは日陰側を選んで作業にあたる。悪天時は場所の良いところ、作業種等を選ぶ。

イ　着替え持参で気分一新

昼食時に汗で濡れたものを着替え、さっぱりした気分で仕事にかかる。

作業終了時も同様、着替えて帰宅する。

ウ　土曜日には

通勤時間の少い箇所、人工的に半日で終る箇所、作業種等をきめ細かく選んで作業する。

(5) 安全に作業するために

ア すね当の上にハバキを重ねる。

すね当の後からボサが入り込むのを防ぎ、足首を紐で縛るので足が軽くひきしまり、ボサに足をとられることもなく疲れも少なくてすむ。

イ 砥ぐそ落しにスポンジ利用

手指で撫でると切れることがあるので、水を含んだスポンジを利用して安全に刃物を砥ぐようになった。

ウ 鎌、鉈の柄に赤テープを巻く

落した際の目印、鎌の柄を握る位置の目印としている。

エ 声を掛け合って安全確認

作業中ときどき声をかけあい、お互いの無事を確認する。

オ ＤＤＶ運動の実施

個人目標点検表を掲示し、全員で点検と反省を行い、自他共に注意した。

カ 緑十字の日の積極活用

毎月５日に緑十字の旗を掲揚し、安全作業に対する誓いを新たにすると共に、体重、血圧測定の外災害事例の検討等を行い積極的に活用した。

キ バイオリズムの利用

ＴＢＭのとき要注意日の人に注意を促し、みんなで気を配った。

ク 安全衛生標語作成

全員が提出し、二首入賞した。

(6) 職場の和を高めるために

ア 何でも気軽に話せる班づくり

作業指示も得手、不得手も考慮して行う。注意は人前や仕事にかかる前はやらない。但し安全上必要なことは、直ちに誰でも遠慮せず注意しあう。

イ 休憩用テントをひとつに

個人、個人で張っていたのをやめて、大きいテントの下で食事、休憩するようにした。

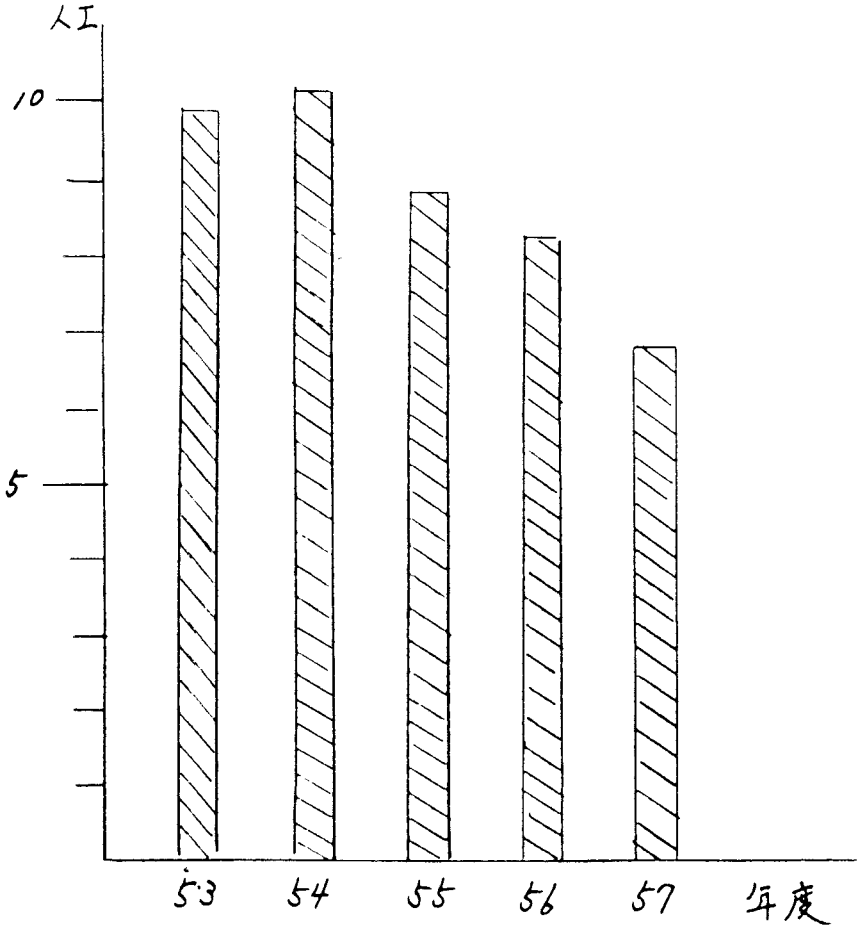
ウ 弁当のおかずも分け合って

珍らしいおかず等は分け合って食べ、家族同様和気あいあいで昼食をとる。

3. ま　と　め

以上の内容でこの１年取り組んだ結果、作業意欲が向上し公務災害はゼロ、除伐や他作業の功程も上がり、好結果が得られました。除伐の功程は（別表）のとおりです。

今後もさらに全員で努力を続けますが、一つの班、一担当区でものを考える時代は終ったと思う

し、思い切った発想の転換をはからなければ、経営改善の推進も限界にくると考えます。少人数班の合併、ミニバス単位の班編成等を含めて、署、現場一体となった緑の山造りの努力を重ねることをお誓いし、あわせて皆様の御指導をお願いします。

別表　除伐作業功程の推移